



【満開の桜が見える『さくらギャラリー』の様子】※令和8年4月撮影



- I. 放射線室・診療放射線技師のお仕事紹介【放射線室】
- II. ～看護師による相談外来のご紹介～ Part2【看護部】
- III. 医療情報室のご紹介【医療情報室】
- IV. 乳がんと遺伝について【乳腺科】
- V. 本年は診療報酬改定が実施されます【医事課】
- VI. アブリスボについて知っておきたいこと【女性診療科・産科】

I. 放射線室・診療放射線技師のお仕事紹介【放射線室】

単純X線撮影（レントゲン検査）について

レントゲン検査は、医療の中で最も身近な検査の一つです。正式には「単純X線撮影」といい、放射線の一種であるX線を使って体の内部を画像として写し出します。骨や肺、心臓など、外から見るができない体の状態を確認するために行われます。今回はA棟地下一階で行われている単純X線撮影を紹介させていただきます。

X線は体を通り抜ける性質があり、その通りやすさは部位によって異なります。空気を多く含む肺は黒く、骨のように硬い部分は白く、その中間の臓器は灰色に写ります。この濃淡の違いによって、体の状態を二次元の画像として確認します。

現在はデジタル装置が普及しており、撮影後すぐに画像を確認できるようになりました。また、画像は院内ネットワークで共有され、迅速な診断に役立っています。（図1）



図 1



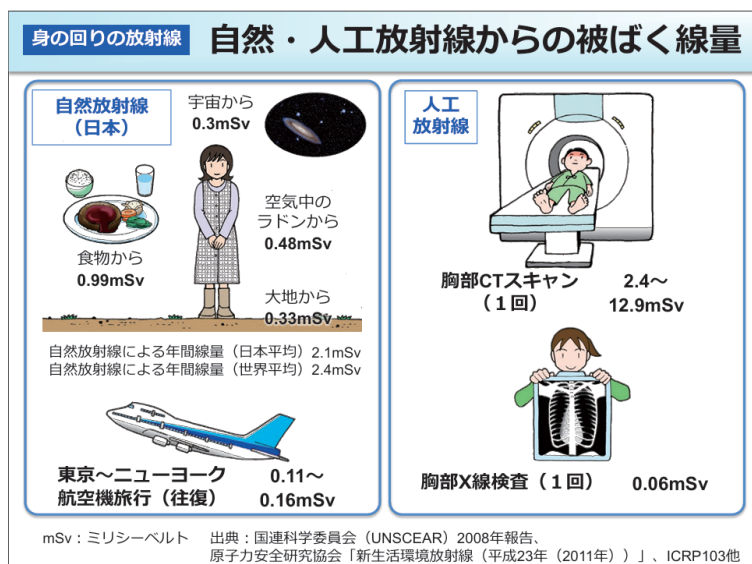
図 2



図 3

検査できる部位は、胸部や腹部、頭部、背骨、手足など全身にわたります。特に骨の状態を詳しく見るのに適しており、骨折や関節の異常の評価に広く用いられています。（図2, 3）

被ばくについて心配される方もいらっしゃいますが、胸部レントゲン1回の放射線量は約0.06mSvと、私たちが日常生活で自然に受けている放射線（年間約2.1mSv）と比べても少ない量です。（図4）



検査を受ける際は、金属類（アクセサリーやボタンなど）を外していただく必要があります。また、正確な画像を得るために、姿勢を保つことや息止めなどのご協力をお願いすることがあります。

当院の診療放射線技師は、安全に配慮しながら、質の高い画像を提供できるよう努めています。検査に関して不安や疑問がありましたら、どうぞお気軽にお声がけください。

図 4

Ⅱ. ～看護師による相談外来のご紹介～ Part2 【看護部】

前々回号に引き続きご紹介します。

外来看護師は、通院患者の在宅療養支援と継続的な看護に力を注ぎ、地域での暮らしを支える看護の提供を目指しています。外来では、看護相談外来を行っています。看護相談外来とは、専門的な知識や技術を持つ看護師が、患者さんやそのご家族の療養生活における悩みや不安を聞き、ケアの指導、情報提供などを行う外来です。

リンパ浮腫相談外来

リンパ節郭清術（かくせいじゅつ）を行った患者さんは、入院中と退院後に外来にてリンパ浮腫の予防指導を行っています。リンパ浮腫のケアは毎日の積み重ねが大切です。相談外来では、患者さんが無理なく続けられるセルフケアと一緒に考え、安心して日常生活を送れるようサポートしています。

【対象者】

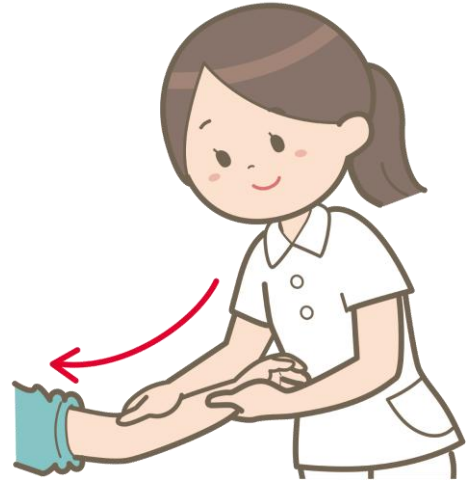
- * 当院の乳腺科・女性診療科にてリンパ節切除（リンパ節郭清術（かくせいじゅつ））を受け、リンパ浮腫の指導が必要と判断された方

【行っていること】

- * セルフケアの基本とスキンケアの重要性について説明
- * リンパ浮腫の病期に応じた対応
 - ・セルフドレナージの方法
 - ・弾性着衣の選定・装着指導
 - ・運動・生活習慣の工夫
- * 個別支援
 - ・生活状況に合わせたセルフケアの提案
 - ・継続しやすい方法の提案

【外来日】

- * 第2土曜日
午後予約制で実施しています。



乳がん相談外来

「いつでも相談していいんだよ・・・」

乳がんの患者さんは年齢や生活背景がさまざまで、必要な支援も一人ひとり違います。看護師は、診察の場面で緊張される方にも寄り添いながら、安心して治療を続けられるようお手伝いしています。患者さんやご家族が「ここで治療してよかった」と思ってもらえるよう、心を込めてサポートしています。

【対象者】

- * 当院乳腺科にて乳がんの診断を受け外来通院中の方

【行っていること】

- * 告知を受けたときの気持ちのケア
- * 治療方針を決めるときの相談
- * 手術後の体の変化へのサポート
- * 薬の使い方や副作用への対応
- * 脱毛や爪の変化など外見のケアについての相談
- * 再発や転移についての相談
- * 終末期の過ごし方についての支援
- * 遺伝性の乳がんに関する情報提供

【外来日】

- * 月曜・火曜・土曜日の診察時に同席しています。



骨折リエゾンサービス (FLS)

「はじめての骨折を、最後の骨折にする」

当院では、骨折を経験された患者さんが、安心して毎日をご過ごせるよう、二次骨折予防を目的とした支援を行う骨折リエゾンサービス (FLS) に基づいた看護外来を開設しています。

FLSコーディネーターである看護師が中心となり、医師やリハビリスタッフなどの多職種と連携しながら、患者さん一人ひとりの生活に寄り添ったサポートを行います。

骨折は、一度起こると1~2年以内に再び骨折するリスクが高いことがわかっています。

私たちは患者さんと一緒に考え、無理なく続けられる方法で、折れにくい骨づくりと転ばないための工夫を支えています。

【対象者】

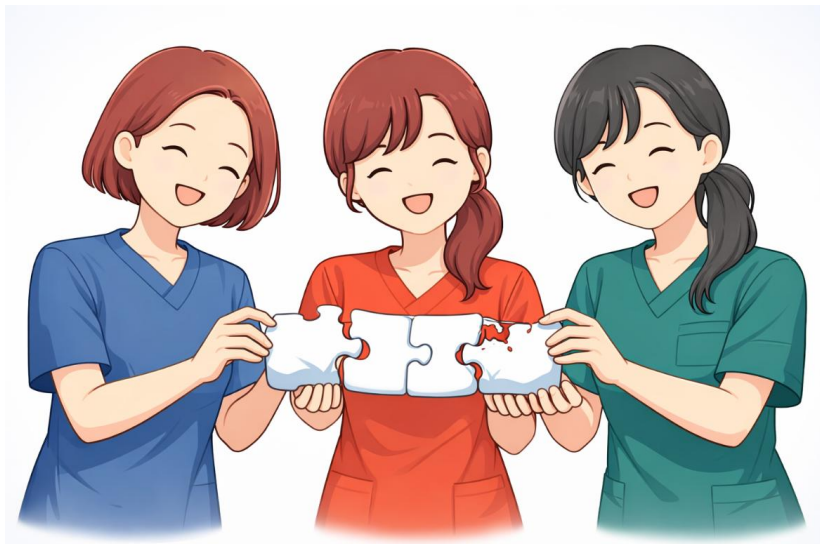
- * 当院整形外科で骨折の治療を受け、外来通院中の方

【行っていること】

- * FLSコーディネーターによる治療や生活に関する不安や疑問についてのサポート
- * 骨粗鬆症の薬（内服・注射）について説明
- * 日常生活の中でできる骨折予防の工夫についてアドバイス
- * 食事や運動のポイント、転倒を防ぐための住環境についてのアドバイス
- * 生活習慣やお身体の状態に合わせた個別のアドバイス
- * 治療を継続しやすいよう通院や治療のサポート

【外来日】

- * 看護外来は適宜対応しています。
- * ご希望の方は、外来受診時に医師またはスタッフへお気軽にお声がけください。



Ⅲ. 医療情報室のご紹介【医療情報室】

●医療情報室って？

病院には様々な職種があります。各診療科で活躍する医師（ドクター）と看護師（ナース）を筆頭に、各種検査の技師、お薬を調剤する薬剤師、朝ドラでも話題になった管理栄養士、etc……いわゆる、医療従事者と呼ばれる職種です。



ですが、病院で働くのは医療従事者だけではありません。お会計窓口を担当する医事課のような、医療事務職……つまり事務部も存在します。その事務部の一つに、医療情報室がございます。

では、医療情報室と聞いて、ピンと来る方はおりますでしょうか？筆者は永山病院に来るまで、医療情報室なるものの存在を知りませんでした。この場をお借りして、医療情報室についてご紹介させていただければと思います。

●医療情報室 = システム管理部署

医療情報室とは、一言で表せば電子カルテを維持・管理する部署です。

昨今、日本政府は医療DXの推進に力を入れており、当院にも様々なシステムが導入されています。もっとも代表的なものが、電子カルテです。

電子カルテは従来の紙のカルテに代わって、他のシステム（検査システム、放射線画像システムなど）と連携し、診療をよりスマートに進めるために開発されたシステムです。もしも電子カルテが不具合を起こして止まってしまうと、診察も止まってしまうので、電子カルテが止まらないよう監視し、不具合が起きた際には迅速に対応することが、医療情報室の最大の役割です。



●進む医療DX

また、医療DXへの対応も、医療情報室の役割の一つです。今後も電子処方箋や、電子カルテ情報共有サービスなどの導入が予定されています。永山病院にこれらの機能が入った暁には、その裏に医療情報室が関わっていたことを思い出していただけると幸いです。

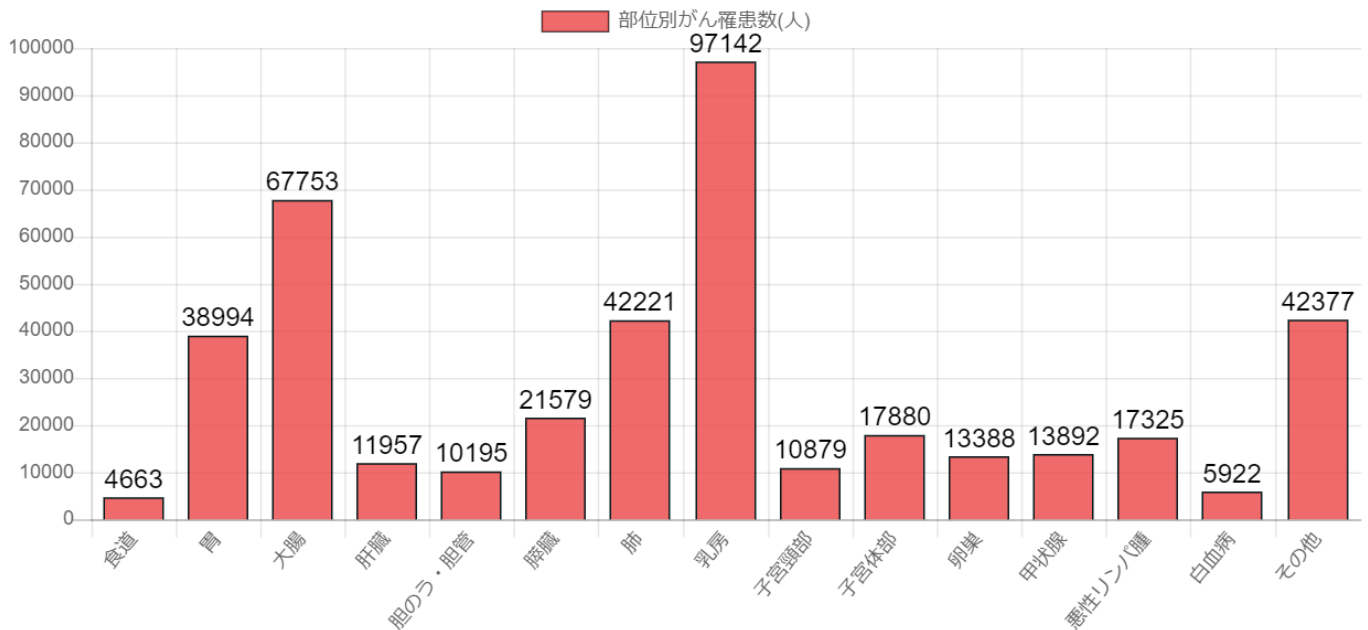


IV. 乳がんと遺伝について【乳腺科】

■ はじめに

日本では女性の約9人に1人が乳がんにかかります。
そのうち約5～10%は、生まれつきの体質（遺伝）が関係しています。
遺伝について正しく知ること、治療方法や将来の予防についての選択肢が広がります。

【がんと診断された数（女性のみ）（2019年）※上皮内がんを除く】



【出典：日本対がん協会ホームページ】

■ 遺伝性乳がんとは

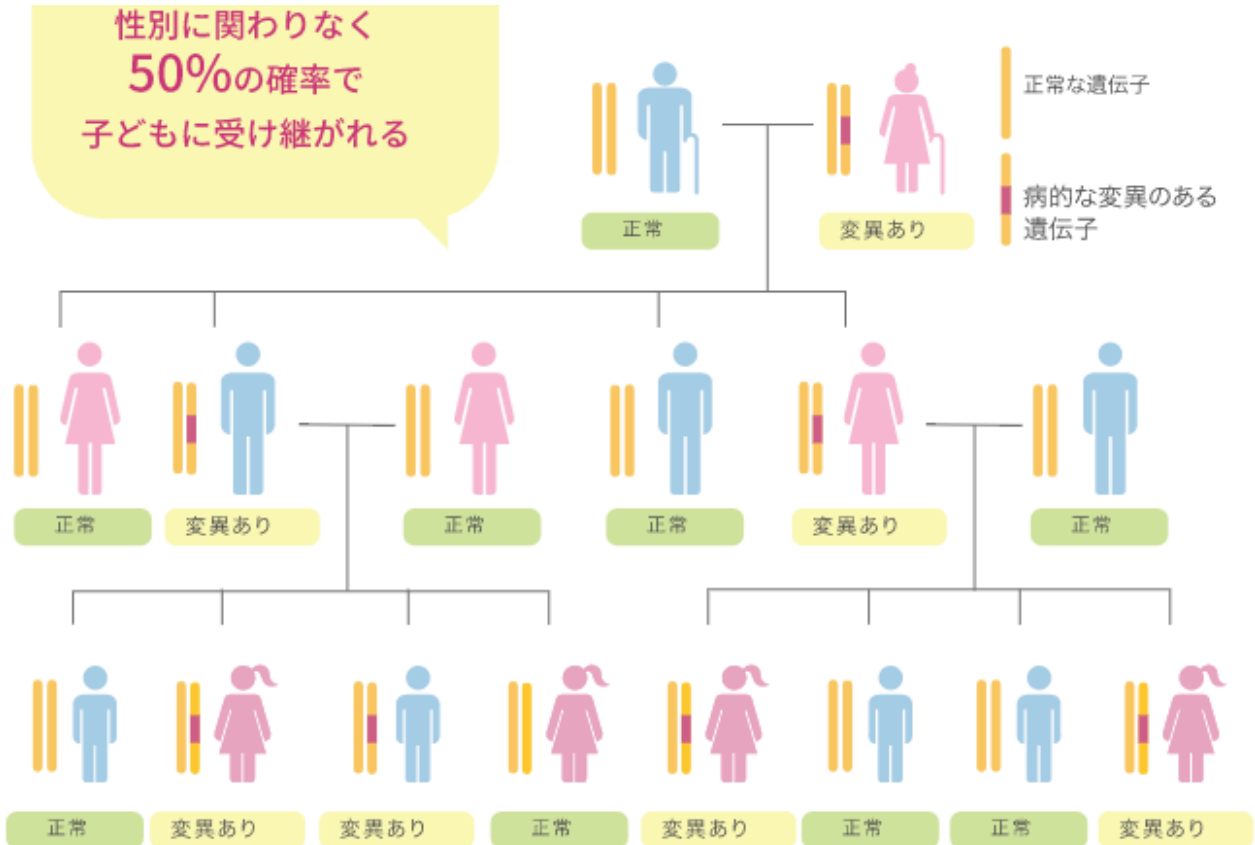
乳がんの中には、遺伝子の変化により発症しやすくなるタイプがあります。代表的なのが **BRCA1・BRCA2遺伝子に関連する遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）** で、最も多くみられます。他にもリンチ症候群やLi-Fraumeni症候群やCowden症候群などが知られています。

■ BRCA遺伝子検査の保険適用となる方（外来でご相談ください）

- ・ 45歳以下の時に乳がんと診断された方
- ・ 60歳以下の時にトリプルネガティブ乳がんと診断された方
- ・ 両側乳がんの方、または同じ乳房に複数の乳がんを発症した方
- ・ ご家族（血縁者）に乳がん・卵巣がん・膵がんの方がいる場合
- ・ 男性乳がんの方

■ 遺伝について

BRCA遺伝子の変化は親から子へ受け継がれる可能性があります。変異がある場合、**お子さんに遺伝する確率は50%**です。これは2人に1人の割合であり、必ず遺伝するわけではありません。男女どちらのお子さんにも関係します。また、遺伝子変異があっても、必ず発症するわけではありません。



【出典：アストラゼネカ株式会社：「卵巣がんと生きる」より】

■ BRCA遺伝子変異がある場合の特徴

- ・ 同じ乳房内に複数のがんができる（多発性）
- ・ 左右両側に乳がんが発生する（両側性）
- ・ 卵巣がんや卵管がんのリスクが高くなる



■ 乳がん治療への影響

将来の同側の新たながんの発生リスクを考慮し、乳房部分切除ではなく乳房全切除が推奨されます。治療方針は患者さんの状態や希望を踏まえて決定されます。

■ 予防という選択肢

BRCA遺伝子変異が確認された場合には、将来の発症リスクを下げるために**予防的乳房全切除**（乳がんと診断されている反対側）や、**予防的卵巣・卵管切除**を選択できます。特に卵巣・卵管がんは早期発見が難しいため、予防手術が重要な選択肢となります。

乳房全切除が必要な場合には、乳房再建術を同時に行うこともできます。

■ 当院でできること

当院では、検査、治療、遺伝診療専門医との相談、予防手術まで対応可能です。患者さん一人ひとりに合わせた最適な治療とサポートを提供しています。以前、乳がん治療した方もご相談ください。



V. 本年は診療報酬改定が実施されます【医事課】



みなさんが医療機関を受診したり、院外処方箋を持って調剤薬局へ行きお薬をもらったりした際に、加入している医療保険の負担割合に応じた金額を支払っているかと思います。本年6月から前回と同じ治療をしたはずなのに、負担割合も変わっていないのに、請求される金額が前回と違う！ということがあるかもしれません。なぜなら本年は

「診療報酬改定」



が実施されるためです。

診療報酬改定は2年に一度実施され、医療の進歩やその時の社会情勢、日本の経済状況などを踏まえて新たな診療報酬が決定されます。また、過去には消費税が増税されるタイミングで改定されたこともあります。

診療報酬改定は以下のような流れで行われます。

厚生労働大臣の諮問機関である中央社会保険医療協議会が改定の方向性を示します。中央社会保険医療協議会のメンバーは、支払側委員（保険者・患者・事業主の代表など）、診療側委員（医師の代表など）、公益委員（学識経験者など）の3者構成となっています。

中央社会保険医療協議会からの答申を社会保障審議会が審議をします。社会保障審議会とは、厚生労働省に設置されている審議会の一つで、診療報酬などの医療制度、年金制度、介護制度、児童福祉制度など広く社会保障に関する課題に対して審議を行う場所です。社会保障審議会でも個別の診療報酬の点数設定や算定条件が議論されます。

そして、内閣が診療報酬全体の改定率を決定し、厚生労働大臣が中央社会保険医療協議会に対し、内閣が決定した診療報酬の改定率や社会保障審議会において策定された基本方針に基づき、診療報酬の改定案の調査・審議を行うよう諮問します。中央社会保険医療協議会でさらに議論を深め、最終的な診療報酬改定の内容が決定されます。

大まかな流れをお話しましたが、詳しい診療報酬改定の内容をお知りになりたい場合は、厚生労働省のホームページ等でも確認することができます。



VI. アブリスボについて知っておきたいこと

【女性診療科・産科】

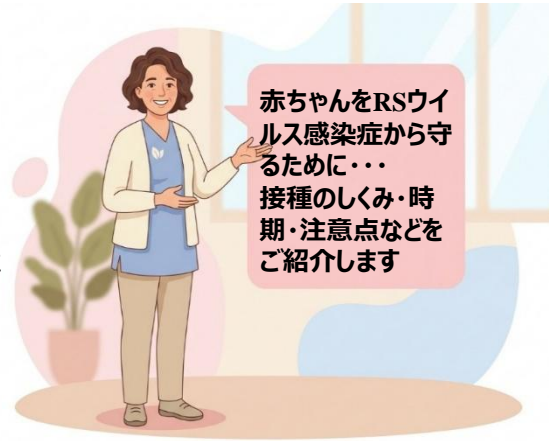
妊婦さんご家族へ アブリスボ、ご存じですか？

はじめに

秋から冬にかけて、RSウイルスによる感染症が流行しやすい時期があります。大人や大きなお子さんには「ちょっとしたかぜ」で終わることも多いウイルスですが、生まれたばかりの赤ちゃんにとっては、気管支炎や肺炎など、受診が必要になるほど重い病気につながる可能性があります。

「アブリスボ」は、妊婦さんが接種することで、赤ちゃんをRSウイルス感染症から守るための**母子免疫ワクチン**です。2024年1月に日本で承認され、5月に発売。今年4月からは国の定期接種にも組み込まれました。

ここでは、アブリスボとはどんなワクチンか、何を防げるのか、いつ誰が対象なのか、副反応や注意点、よくある疑問など、妊婦さんやそのご家族が気になるポイントをご紹介します。「打つか迷っているけれど、よくわからない」という方が、ご家族や担当の先生と話し合うきっかけになれば幸いです。



1. RSウイルス感染症とは

RSウイルスはどんなウイルス？

RSウイルスは、毎年秋から冬にかけて流行しやすいウイルス（近年は流行しやすい時期に変化がみられている、といわれています）で、大人や幼児では、くしゃみ・鼻水・せき・発熱といったかぜに似た症状を認めることが多くあります。感染してもそれほど重症化しないことも多く、「あれ、かぜかな？」と気づかずに過ごすこともあります。

赤ちゃんへの影響が心配な理由

ところが、生後まもない赤ちゃん（特に生後6か月未満）は免疫のしくみがまだ十分に育っていないため、RSウイルスに感染すると症状が重くなりやすい傾向があります。

具体的には、

- ゼーゼー・ヒューヒューとした呼吸（喘鳴）
- 息苦しそうにしている
- 母乳やミルクを飲む量が減った
- ぐったりしている

といったサインが出ることもあり、気管支や肺の病気（気管支炎・肺炎）につながることもあります。「ただのかぜ」と見えても、月齢が低い赤ちゃんでは入院が必要になるケースもあるのです。



2. アブリスボは、赤ちゃんを守るために妊婦さんが打つワクチンです

「母子免疫ワクチン」とは

アブリスボは「母子免疫ワクチン」といわれるタイプのワクチンです。

「母子免疫ワクチン」という言葉は聞きなれないかもしれませんが、簡単にいうと、**赤ちゃんを守るために妊婦さんが接種する**ワクチンです。

しくみは以下の通りです。

- 1. 妊婦さんが接種する**：お母さんの体の中で、RSウイルスと戦う力（抗体）が作られます。
- 2. 抗体が赤ちゃんに届く**：作られた抗体は、胎盤を通じて赤ちゃんに移行します。
- 3. 赤ちゃんが守られる**：赤ちゃんは、お母さんからもらった抗体をもった状態で産まれてくるため、生後早い時期からRSウイルスへの予防効果が期待できます。



ワクチンの成分について

アブリスボの正式名称は「組換えRSウイルスワクチン」（販売名：アブリスボ筋注用）で、ファイザー社が製造しています。

「ワクチンの成分がそのまま赤ちゃんに入るの？」と心配される方もいらっしゃいますが、ファイザー社によるとアブリスボのワクチン成分そのものは胎児には移行しないとされており、胎盤を通じて移行するのは、お母さんの身体が作った抗体です。

3. どんな効果が期待できるの？

臨床試験で示された効果

アブリスボの効果は、日本を含む世界各地の妊婦さんを対象に行われた大規模な臨床試験（MATISSE試験）で確認され、以下のような結果が示されています。

対象：生後180日までの乳児	効果（減少率）
医療機関への受診が必要なRSウイルス関連の気管支・肺の病気	約51.3%減少
重い気管支・肺の病気	約69.4%減少

つまり、生後180日までの赤ちゃんの

- 受診が必要な病気になるリスクが**約半分**に
- 重い症状になるリスクは**約7割**

少なくなったという結果が、臨床試験で示されました。

「必ず防げる」わけではありません

ただし、注意点があります。どのワクチンも、100%感染を防げるものではありません。接種していても、RSウイルスに感染することはあります。

アブリスボは、「**感染したときに重い症状になるリスクを下げる**」という効果が期待されるワクチンです。赤ちゃんに気になる症状があるときは、接種の有無にかかわらず、受診することが大切です。

4. いつ受けられるの？だれが対象？

定期接種の対象となる妊婦さん

日本では2026年4月から、アブリスボが**定期接種**（公費で受けられるワクチン）の対象となりました。

接種の対象となるのは、**接種する時点で、妊娠28週0日～36週6日の妊婦さん**です。

この週数の範囲内で、医師と相談しながら接種時期を決めましょう。RSウイルスに罹ったことがある妊婦さんも対象になります。

接種の回数・方法

- 回数：妊娠ごとに1回（筋肉内注射）
- 量：1回0.5mLを腕に注射します

次の妊娠の際には、また改めて接種の対象となります。

費用について

定期接種として実施される場合は、**無料**で受けることができます。ただし、費用や実施方法は**お住まいの自治体によって異なる**場合があります。詳しくはお住まいの自治体の案内をご確認ください。

△ 里帰り出産を予定している方は、接種できる時期が限られるため、**早めに接種場所や予約方法を確認**しておくで安心です。

△ 対象週数である36週6日を過ぎると定期接種の対象外（自費での接種）となる場合があります。気になる方は早めに主治医にご相談ください。

5. 接種の前に知っておきたいこと

出産予定日が近い場合は相談を

アブリスボは、「接種後14日以内に生まれた乳児については、有効性が確立されていない」といわれています。

たとえば、36週で接種して38週未満で出産した場合、接種から出産まで14日たっていない可能性があります。出産予定日が近い場合や、早産の可能性が高いと言われている場合は、**接種のタイミングについて医師とよく相談**してください。



接種の前に必ず伝えてほしいこと

接種前の問診で、次のことは必ず医師や看護師に伝えてください。

- これまでにワクチンや薬で強いアレルギー反応（じんましん・呼吸困難など）が出たことがある
- 血液をサラサラにする薬（抗凝固薬）など、注射で出血しやすくなる治療を受けている
- その日の体調が優れない、発熱がある
- 他のワクチンを近いうちに受ける予定がある

他のワクチンとの同時接種について

アブリスボは他の不活化ワクチン（インフルエンザワクチンなど）との同時接種が可能とされています。ただし、百日咳を含むワクチンとの同時接種では免疫への影響が報告されているとのデータもあることから、実際の接種計画は**主治医と相談のうえで決める**のが安心です。

6. 副反応は？ 受けたあとに気をつけること

よくみられる反応

どのワクチンでも、接種後に体が反応することがあります。アブリスポでは、よく見られる反応として、注射部位の痛み、頭痛／筋肉痛の反応が報告されています。

またそれ以外の反応として、注射部位の赤み・腫れ、発疹・じんましんなどの報告もあります。

こんな症状があるときは、すぐに相談を

まれですが、次のような症状がある場合は**すぐに医療機関へ連絡**してください。

- 息苦しさ、喉がしまる感じ
- 顔や口の腫れ
- 全身に広がるじんましん
- ぐったりする、意識がぼんやりする
- 心臓がドキドキする（動悸）

これらは強いアレルギー反応（アナフィラキシー）のサインの可能性があります。

△ 妊娠中は体の変化が大きい時期です。「いつものことかも」と我慢せず、気になる症状があれば早めに医療機関へご連絡ください。

7. よくある質問Q&A

Q1. アブリスポは、妊婦さん本人のためのワクチンですか？

A. 主な目的は、生まれてくる**赤ちゃんのRSウイルスによる気管支・肺の病気を予防**することです。妊婦さん自身の症状を軽くするためのワクチンではありません。

Q2. 接種したら、赤ちゃんは絶対にRSウイルスにかかりませんか？

A. 絶対に防げるわけではありません。接種しても感染することはあります。ただし、臨床試験では、受診が必要な病気や重い症状になるリスクを大きく下げる効果が確認されています。

Q3. いつ受けるのが良いですか？

A. 日本の定期接種では、**妊娠28週0日～36週6日**が対象です。早めに主治医や助産師に相談し、接種の時期を一緒に決めましょう。

Q4. 出産予定日が近いのですが、受けられますか？

A. 接種後14日以内に生まれた赤ちゃんでは、効果が確立されていないとされています。出産予定日や体の状態によって接種のタイミングが変わりますので、必ず医師にご相談ください。

Q5. 副反応が心配です。

A. 注射した部位の痛み・頭痛・筋肉痛などがみられることがあります。多くは数日で落ち着きます。強いアレルギー反応など、気になる症状があれば早めに医療機関へご相談ください。

Q6. 他のワクチンと一緒に受けられますか？

A. 他の不活化ワクチンとの同時接種は可能とされています。ただし、どのワクチンをいつ受けるかは、主治医と相談して計画するのが安心です。

Q7. 費用はかかりますか？

A. 2026年4月からの定期接種では、原則として**無料**で受けることができます。ただし、費用や実施方法は自治体により異なる場合があります。お住まいの自治体または受診先の医療機関にご確認ください。

Q8. 里帰り出産の予定があります。どうすればよいですか？

A. 里帰り先と現住所の自治体で手続きが異なる場合があります。接種できる医療機関や予約方法を**早めに確認**しておきましょう。妊婦健診時に相談すると案内してもらいやすいです。

8. 当院での接種をご希望される場合

当院で分娩予定の方

妊娠初期にアブリスボについてのパンフレットをお渡しします。ご家族と接種についてご相談ください。ご質問がある際は、健診の際などに遠慮なくお声がけください。

定期接種対象週数近くになりましたら、あらためて接種のご案内をいたします。

アブリスボ投与のみご希望の方

多摩市・町田市・八王子・日野・稲城市に在住の方が対象となります。ご希望の方は、当院代表番号(042-371-2111)より女性診療科・産科外来にご連絡をいただき、アブリスボワクチン外来の予約をお願いいたします。



9. 引用元一覧

- 厚生労働省「RSウイルス感染症に対する 母子免疫ワクチンの 定期接種を実施します」
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001662133.pdf>
- ファイザー株式会社「ファイザーとあすか製薬、RSウイルスワクチン『アブリスボ』コ・プロモーション開始」
<https://www.pfizer.co.jp/pfizer/company/press/2026/2026-03-06>
- 東京都保健医療局「妊婦の方へのRSウイルスワクチン定期予防接種」
<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kansen/yobosesshu/rsvninputeiki>
- 広報東京都「4月1日からRSウイルスワクチンの定期接種が始まります」
<https://www.koho.metro.tokyo.lg.jp/2026/04/oshirase01.html>



編集 後記

春のやわらかな陽気に包まれる季節となりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。本号では、放射線室の仕事内容や被ばくに関する正しい知識、看護師による相談外来におけるリンパ浮腫や乳がん、骨粗鬆症に対する骨折リエゾンサービスについてご紹介しています。また、医療情報室の役割や乳がんの基礎知識、今年度の診療報酬改定、アブリスボ（母子免疫ワクチン）についても分かりやすく解説いたしました。今後も皆さまの健康に役立つ情報をお届けしてまいります。

広報委員会委員長 北川 泰之



日本医科大学多摩永山病院 看護部
Instagramページ はこちらから



ほっと多摩

👉バックナンバーは
こちら



日本医科大学 多摩永山病院
NIPPON MEDICAL SCHOOL TAMANAGAYAMA HOSPITAL

広報委員会事務局

☎206-8512

東京都多摩市永山1丁目7番地1

☎042-371-2111 (代表)